

	内容別・課題別の課題分析（知識、技能）	具体的な授業改善策	評価・反省
国語	- 漢字の書き取りが苦手な児童が多い。 - 語彙が少なく、自分の思いを的確な言葉で表現することに課題がある。 - 文章を書く際に、主語・述語の関係がねじれてしまう児童が多い。 - 文章を書く際に具体例を詳しく書くことに苦手な児童が多い。	- 漢字学習の方法を指導し、児童が練習した字をブレテスト等でチェックする機会を設定する。（宿題チェックを含む） - 意味の分からない言葉の意味を調べたり、教えたりして児童の知識を増やす。正しい日本語の使い方について指導する。 - 文章を短く書くことや、読み直すことを指導し、主語と述語の関係に気付きやすくするなど、正しい文法が使えるように練習する。 - 教師の作成したモデル文や、良く書くことができていた友達の文章をもとに書き方のコツを指導する。	
社会	- 社会科の学習内容を生活との関連を踏まえて理解することができていない児童が多い。 - 基礎的な資料から必要な情報を適切に調べ、まとめる技能の習得に課題がある。	- 社会で起きている様々な現状を捉え、授業の中で指導していく。そこで身近なことに関連させるように授業を展開する。 - 複数の表やグラフを比較して、必要な情報を読み取る活動を取り入れ、読み取ったことから考えをまとめる指導を行い、定着を図る。	
算数	- 整数のかけ算やわり算の筆算への理解が不十分で、小数のかけ算やわり算の計算技能の習得に課題がある児童がいる。 - 問題の意図を捉えられず、立式することに課題がある児童がいる。	- 習熟度別クラスにおいて、2けたのかけ算の復習を取り入れたり、A I型学習教材「キューピナ」やベーシックプリントを活用したりして、整数のかけ算やわり算の問題に繰り返し取り組ませる。その上で、小数点を移動して計算する意味を指導し、筆算の中にも書き込ませて可視化しながら習熟を図る。 - 数直線を用いて2つの量の関係を正しく捉えられるようにする。図と式を対応させながら数値や演算の意味を明確にできるように指導する。	
理科	- 問題に対して自分なりの予想を立てたり、実験の方法を自ら考え、意味を理解したりすることに課題がある。 - 実験の結果を正確にまとめ、そこから考察することが難しい児童が多い。	- すぐに教科書の実験を行うのではなく、実験の計画を立てるところから自分で行うようにする。条件を制御して実験することを意識させる。また、既習事項や経験を根拠に予想を立てさせる。 - 実験結果を表やグラフなどに整理し、予想と結果を比較するとともに、設定した条件に着目して考察する活動を充実させる。友達の考えと比較しながら自分の考えを見直し、根拠を持って表現できるようにする。	
音楽	- 歌唱では、意欲的に声を出せる児童が多い。思いを歌声に表現できるようになるとよい。 - 器楽では、自分の音だけでなく全体の響きや伴奏を聴いて音を合わせて演奏できるようにすることが課題である。 - 鑑賞では、曲の特徴を捉えて聴いたり、曲の良さを言葉で伝えたりすることに個人差がある。	- 楽譜や歌詞を読んだりして曲の特徴を捉え、どのように歌いたいかな伝え合い、歌う様子を聴き合う場面を多く設けるようにする。 - クラスを2つに分けてお互いの演奏を聴き合って感じたことを発言したり、伴奏を聴きながら自分のパートを心の中で歌ったりして、全体の響きを意識して演奏できるようにする。 - 知覚・感受したことをワークシートに記入し、多様な考えを全体で共有したり対話的な学習を取り入れたりして、他者の意見を聞いて考えを深めたり自信をもって発言できるように指導していく。	
図工	- どう表したらよいか分からず自信をもって表現できない児童がいる。 - 表したいイメージはあるが、時間がかかりすぎてしまうなど活動の見通しがもてない児童がいる。	- 参考作品を授業の始めや活動の合間に提示し、イメージを共有する。周りの意欲を喚起するとともに児童のアイデアを価値付ける。 - 一つ一つ確認して取り組めるよう、時間を区切って課題を与える。また、個別対応で声を掛ける場面を増やしたり、友達との教え合いをすすめたりして、周囲のサポート環境を整える。	
家庭	- 学んだことを生活の中に生かし切れていない児童が多い。家族の一員としての意識に課題があり、実践できていない。 - 手縫い、ミシン縫い等の技能習得状況に課題がある。	- 授業で学んだことを家庭生活で生かせるように授業を計画する。また、家庭にも協力を依頼する。 1人1台端末などを活用して、縫い方の方法等をわかりやすく工夫する。また、個別に指導するとともに、グループ学習や教え合いを取り入れ、身に付けさせていく。	
体育	- マット運動や鉄棒運動など技能を高めるためのコツを自ら見付けたり、考えたりする力に課題がある。 - 友達と話し合い、自分や自分たちの課題について克服しようとする力が弱い。	- 動きのポイントを明確にし、グループで取り组ませ、互いに動きの確認ができるようにする。その際、1人1台端末を活用する。 - 友達の動きにも注目させ、よいポイントを見つけることで自分の実践にも生かせるようにする。	

